

¥ NPO ☆ Kyoken通信



春号（基金訓練特集号）

☆特定非営利活動法人教育研究所(問題行動研究会事務局)97号 平成22年3月31日発行

〒233-0013横浜市港南区丸山台2-26-20 TEL:045-848-3761/FAX:045-848-3742

URL: <http://kyoken.org/>

E-mail: contact@kyoken.org

春がまた来た。この季節になると四季のある日本に暮らして良かったと思うのは、私だけではないはずだ。冬の厳しさを味わった後の花咲く春は特別な思いがする。特に四季の区別がはっきりしている北陸地方に行く機会に恵まれると、そう思うようになった。

また、春は区切りの季節。新入生、フレッシュマンのスーツ姿が目飛び込んでくる。その姿を見ていると、還暦を過ぎた私でも、新しい気持ちが湧き上がってくるから不思議な季節だ。

「春になったから何か新しいこと始めよう！」と、四季のある日本に長年暮らすと四季のリズムが身体すみずみに染み込み、それが一斉に咲き始めるのかもしれない。若い時は、「変化しないものはない。しかし、変革を常に望んだが、叶わぬことが多い。」という気持ちだった。今は、「変化しないものはない。しかし、変化を恐れる気持ちは心の片隅にある。」この矛盾に満ちた気持ちが生きる証かもしれない。でも、本音は…。

春眠不覚曉
處處聞啼鳥
夜來風雨聲
花落知多少

かも、知れない。これでは、不登校やひきこもりの若者や青年の心と変わらぬ！
(文責 牟田武生)

Kyoken通信ヘッドライン

- ◎ 若者自立塾から合宿型自立支援プログラムへ
- ◎ 今時の若者、社会的育ちが悪いのはなぜ？ 新たな教育的な試みへ
- ◎ 若者自立塾5年をふり返り、牟田武生の勝手な思い

若者自立塾から合宿型自立支援プログラム

～若者自立塾に変わる新たな事業～

若者自立塾は民主党の行政刷新会議「事業仕分け」によって、2010年3月31日廃止に追い込まれた。それに変わる新たな事業として「基金訓練 社会的事業者等訓練コース 合宿型若者自立プログラム」が生まれた。

民主党のマニフェストには、ニートやひきこもりという言葉がないために、失業者の枠組みを利用しプログラムが作られる関係上、不登校からひきこもりニートになった社会経験のほとんどない若者にとって、多少敷居の高いものになるかもしれない。また、主催者にとっても、20人以上の合宿施設＋研修設備＋就労体験先を整えなければならないので、非常に敷居が高い。旧自立塾主催者でこのプランに参加したくても、出来ない団体は非常に多いのではないか。

幸いなことに私たち NPO 教育研究所は社会保険庁の保養所（ホールサムインうなづき）を2年前に国から購入し、今度の基準を全て満たしている。それでは、応募について確認してみよう。

第1期生「基金訓練 社会的事業者等訓練コース 合宿型若者自立プログラム」

- 訓練目標……コミュニケーションスキル・社会性・体力を身につけ、積極的に社会参加できるようにする。
- 訓練の特色…合宿生活と訓練をマッチさせ、他者との交流が自然に身に出来るようにし、自信を付けさせる。
- 応募資格……無就労・無就学状態にあり現状を変えたいと考えている方で、次の条件を満たす方。
 - ① ハローワークに求職申込を行っている方又は求職申込の出来る方
 - ② ハローワーク所長の受講勧奨が受けられる方
 - ③ 年齢概ね 16歳～39歳の方
- 訓練内容……各種検査（YG検査、クレペリン検査、最大酸素摂取量（VO2MAX）等）、ビジネスマナー講座、ワークガイダンス）、PCスキル講座（ワード、エクセル、パワーポイント等の基本的なPCスキルを学ぶ）希望者はマイクロソフト社の資格試験を受け資格取得可能）生活スキル（清掃、食事作り、洗濯等のマスター）、体力の向上、就労講座（面接の受け方、履歴書の作成、添削、職務経歴書の作成、添削等、就職試験を受けるための演習）様々な職種 of 就労体験
- 指導方法……カウンセリングと認知行動療法を組み入れ、受容から指導へと向い、心情を変化させていき、気持ちを引き出し、本人の適性に合った職種を探し出します。NPO 教育研究所（横浜）または宇奈月自立塾（富山県黒部市宇奈月温泉）に電話またはメール、FAXしてください。
- 募集期間 平成22年3月28日（日）～4月16日（金）
- 選考日 4月17日（土）、18日（日）結果通知 4月20日（火）から21日（水）
- 訓練期間 平成22年4月26日（月）～10月23日（土）6カ月間（訓練日数182日）

- 定員 12名
- 訓練実施施設名 特定非営利活動法人 教育研究所 宇奈月自立塾
〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉 5509-16 電話 0765-62-9681 FAX0765-62-1120
- 訓練費 無料、生活費総費用額 543,060円（最初の月 93,060円、次月以降 90,000円）
※訓練・生活給付金・・・雇用保険を受給できない方が、一定の要件を満たせば、月額10万円の給付を受けながら訓練を受講できる制度です。詳しくはハローワークの窓口でお問い合わせ下さい。

受講までの流れ

事前、相談&面接

定員が12名と少なく、また、訓練費及び条件によって生活給付金が受けられ、自己負担額が殆どかからないことや全国のハローワークでも申込が始まることにより、多くの人の希望に添えない場合があります。そこで、NPO教育研究所（横浜事務所）と宇奈月自立塾で3月28日から4月9日まで（要予約）事前、相談&面接を開始いたします。相談内容によっては有料になります。

①ハローワーク

- 〈1〉求職申込を行います。（求職カードの作成…職業訓練を受けたいと受付に申し出れば作れます）
- 〈2〉基金訓練の受講申込をします。
- 〈3〉キャリア・コンサルティングを受け受講申込書を受け取り提出します。

↓

②NPO教育研究所・宇奈月自立塾

- 〈1〉4月17日（土）・18日（日）に面接と心理検査を行います。（宇奈月又は横浜）
- 〈2〉ご自宅に選考結果通知書が届きます。

↓

③NPO教育研究所・宇奈月自立塾

4月26日（月）（第1期生入所式）訓練開始、10月23日（土）第1期生修了式

特定非営利活動法人教育研究所

〒233-0013横浜市港南区丸山台2-26-20 TEL:045-848-3761/FAX:045-848-3742

URL: <http://kyoken.org/>

E-mail: contact@kyoken.org

宇奈月自立塾

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉 5509-16 電話 0765-62-9681 FAX0765-62-1120

今時の若者、社会的育ちが悪いのは「なぜ」 新たな教育的な試みへ（上）

牟田 武生

学校も家庭も、子どもに至れり、尽くせりの結果は…

関西地方に住むお母さんから、高校生の息子はネットゲームばかりやって、学校に行かなくなった。そして、ついに留年が決まり、どうするのかと息子に聞くと、「高校はかったるい」「めんどちい」と言う。「高校をやめれば、自由にネットゲーム三昧の日々が送れる」という。親としては、勉強しないならば、働きなさい（現実的には働く場所のあてはないが）と思うのだが、どうしたらよいのでしょうかという質問があった。

最近こんな相談事例が増えている。今までに似たこのような事例のほとんどは高校中退し、サポート校に行き、通信制で単位を取得することになる。サポート校は子どもが休めば連絡し出席扱いにする。試験に受からなければ、受かるように指導し、単位が取れるようにしてくれる。

今の学校教育は、昔の学校と違い面倒見が良いが、もっとサービス精神溢れる株式会社のサポート校は、これに輪にかけてサービスが行われているようだ。「とにかく、高校だけは卒業させなくては…」と思う親心がわからない訳ではないが、これで子どもは果して大人になれるのか。

「勉強だけはしてね！」と小さい頃から塾通いを続けさせ、家のことは何一つできない子どもが作られていく。勉強はひとり遊びのゲームと同じで、人間関係のスキルも、コミュニケーション能力も育たない。日常生活に必要な掃除、洗濯、炊事等の生活技術が育っていない。

本来、教育は学力と社会性の両輪をバランスよく、身につけていくことと、その子の持っている能力を最大限引き出し、成長させるためにある。だから、一人ひとりの子どもの顔が違うように、個性や能力も違うから指導法も違って良いのだが、今の学校教育は、肝心なところでサービス精神が足りない。能力の違いや人生の目的が違っていても、それを「よーい、ドン」で一斉に走らせ、その結果で点数によって偏差値化させ、高校や大学に進学させていく。親もそれを望んだ。その結果、高校では職業科がなくなってしまった。

基本的な学力や思考訓練は生きて行く上に非常に大切なものであるが、同時に社会性や働く大切さを子どもに身に付けさせないとトンデモナイ青年が大量にできあがる。

偉大な消費者になれても、生産者にはなれない若者像

「俺は嫌なことはイヤなんだ、イヤなことをしなければならぬのなら、やめれば良い」

「好きなことだけをしていたい。責任のかかることやストレスになることはやりたくない」という短絡的な結論を導き出す、若者が増えている。

そして、彼らの意見を聞くと、小さい頃は「親が勉強しろ」というから、「塾に行ってブローラーのように、勉強させられたけれども、受験競争だけで、小学、中学、高校、大学と、成績だけで振り落とされていくだけで、何ひとつ良いことはなかった」という。

そんな若者が青年になり、ある日、自分は勉強以外、何もできないことに気づき、自分をどうにかしようと自立塾に来て、スタッフに「ご飯を炊いて」と言われれば、お米を研ぐどころか、生米だけを電気炊飯器に入れて、スイッチを入れる若者までが登場した。

勉強することと同時に家のお手伝いをする、隣近所に住む自分より年少の子どもの面倒をみること等が、できない時代にいつの時代から突入したのか。大家族から核家族へ、地域社会の崩壊は地域の教育力の低下を招き、子どもの社会性を育むことができなくなった。大人になれない若者だけを責めるわけにはいかない。

文部科学省は社会性や働くことの大切さを学ばせる決め手の一つとして、キャリア教育や職場体験や就労体験を学校教育に取り入れることになった。非常に良いことではあるが、中学生で年間2日から3日ではどうしようもない。

昔からいわれた「勉強しないならば働きなさい」というのは、マトを射た言葉である。しかし、今の時代、勉強するより、働くことの方が若者にとっては難しいらしい。能力がないのではない。

何かが足りない、若いうちはいつの時代でもそうだが、仕事を覚えさせるために、若者に色々な単純作業をさせる。でも、今の若者は疲れると「私はこんな仕事をするために生れて来たのではない」「自分には自分だけしかできない、創造力を働かせるクリエイティブな仕事や頭脳労働の方が向いている」といい、職場放棄してしまう。

想像力といっても、何か言わせて見ても、漫画やアニメのような空想ごとが多い。絵を書かせても、やはり、アニメのキャラクターの絵を描く。そこには先見性も何もない。計算をやらせても、電卓やパソコンがないと四則混合の計算もできない。加減より乗除を先にやらなければ、正答がでないことはわかっているが、その理由がわからない。計算力はある、原理が理解できていない。これが大学卒業者の現状である。とても、頭脳労働できる力量はない。就労体験先の外国人労働者は片言の日本語だが、英語も母国語も話し、実に素早く根気良く、正確に仕事をこなしていく。

以前、漆の伝統工芸を守る後継者を育てている親方と話したが、30年位前は確かに日本人の若者は器用だった。しかし、最近は西欧人で日本文化を勉強しに来ている若者の方が器用だし、日本文化を知っている。また、本来、日本人誰でもが持っていた繊細さを彼らの方が持っていることに、驚き、落胆もしていると嘆いていたことを思いだした。

(続く)

若者自立塾5年をふり返り、牟田武生の勝手な思い

ある高校の就職担当の先生から話を聞いた。今年、卒業した高校3年生の就職率が3月中旬でようやく9割を超えた。それでも、過去最低の就職率だという。特に資格が何もない普通高校を卒業した生徒は厳しかったという。

しかし、実際は6割程度だという。就職希望者でも、経済的に余裕のある生徒の場合は大学や専門学校に進学したという。「就職できなければ進学する」10年前とは進路状況が一変した。以前は「進学できなければ就職する」だった。

少子化の進んだ今では大学を選ばなければ入学できる。しかし、大学を卒業しても就職先はなく大学院に進学する。職種を選び好みしなくても、正社員にはなれない空前の就職難だ。働きたいのに働く場がない社会になってしまった。

一般の失業者は何度も就職試験を受けても、めげずにすぐ立ち向かっていく。しかし、元、ひきこもりの人たちは、合宿生活、就労体験を通して、おぼろげながらできた自信を、一度の就職試験失敗で喪失してしまう。そして、立ち直るのに時間がかかる。不況の時こそ生き残るために必要な根性や社会経験を通した社会性が足りない。それが育つには時間と関わる人の莫大なエネルギーが必要になる。

アメリカ政府の仕事をするアメリカ人の社会心理学者が、私達の仕事の内容を聞き、この仕事は対費用コストが成立しない。(不登校+ひきこもりの年数)×200万(年間費用コスト)位かかる。アメリカだったら、政府がジョブコアのように出すだろう。あなた方も、政府や保護者に請求しなさいという。

若者自立塾廃止は、非常にタイミングが良い時期だったのかもしれないという意見が与党国会議員の中にある。不登校やひきこもり、ニート問題は個人や家庭の問題だけではない。100万人近い人数や日本や韓国にしか起こっていないという事実は病気ではなく、おそらく、戦後の学校教育を含めた社会デザイン作りに誤りがあったのかもしれない。

そうだとしたら、家庭にその負担を押し付けるわけには行かなくなる。政府が何らかの支援や資金負担をしなければならなくなる。旧与党は若者自立塾という施策で実験的に少しの財政負担で、はじめたが、これには莫大なエネルギーとコストが掛かることが見えてきた。できれば、ひきこもりやニートは大きく捉えれば失業者になるから失業対策に組入れ、ひきこもりやニート問題の本質的な問題をぼやかし、失業対策(労働訓練+生活給付)で動けないのは、家庭や本人の問題とし、自己責任にしまえば、大きな財政支出は回避できると考えている。

本当にそう上手くことが運ぶだろうか。日本国内の殺人事件は1年間で1200人減少傾向にあるが、身内による殺人事件は120人増加傾向を示している。これは何を意味しているのか。考えるとぞっとするのは私だけだろうか…。(△)

NEWSその1、新たな若者自立「基金訓練」が始まりました。今回の訓練は訓練費用だけでなく、一定の条件を満たせば、生活給付金（月10万円）も支給されます。4月から始まる宇奈月自立塾の応募は始まっています。お早めにご相談下さい。（定員12名）この政策（基金訓練）も1年間のみで平成23年3月で廃止になります。国の若者自立への最後のチャンスになる可能性があります。

NEWSその2、日本サムスンの社会貢献事業「あすなる学校」へのNPO教育研究所の支援協力は平成22年3月末をもって終了致しました。

◎ 講演会のお知らせ（平成22年4月から6月予定）

4月から6月まで全体のテーマを「育ちそこねた若者をどうするか」という演題で迫ります。会員は無料です。

4月4日（日） 13時から17時	富山	富山県民会館号室（601号室） 演題「新しい若者自立支援について」 講師 牟田 光生
4月10日（土） 13時から17時	横浜	京急線上大岡駅前ウイリング横浜 5F503号室 演題 ～いまどきの若者と付き合うために～ 「めんどくさい・かったるいの心理」 講師 牟田 武生
5月8日（土） 13時から17時	富山	富山県民会館 演題 ～いまどきの若者と付き合うために～ 「めんどくさい・かったるいの心理」 講師 牟田 武生
5月22日（土） 13時から17時	横浜	京急線上大岡駅前ウイリング横浜 5F501号室 演題「社会性を育てるためにはどうすべきか」 講師 牟田 武生
6月27日（日） 13時から17時	富山	富山県民会館 演題「社会性を育てるためにはどうすべきか」 講師 牟田 武生

～今どきの若者とつき合うために～

「めんどくさい・かったるいの心理」

講師 NPO教育研究所 所長 牟田武生

何をやっても長続きしない。親が責めると「なんで楽しくないこと、嫌なことをしなければいけないのか、そんなこと、強制する権利は親にはない。たとえ、『親権だ』何て小難しいこと言ったって無視すればよい。ひきこもるといふ最終手段は俺たちが握っている」と言う若者を最近見かけるようになった。

不安や緊張のあまり外出できない社会不安障害で悩む、真面目なひきこもりの若者もいれば、前者のような若者も存在する。

背景にあるものは、社会性やコミュニケーション能力の欠落だけではない。ひととして生きる価値観の変質が起こっている。ひととして大切なものが育たなかったのはなぜだろうか。

戦後社会が学校教育に要求した。学歴や点数至上主義が、社会や家庭に影響を及ぼし、ひとを育てるはずの教育に歪みが現れた結果のひとつなのだろうか。

しかし、親も私たちも子を育てるといふ意味では同じ実践家である。評論をしていても、子は動かず、若者から中年になっていく。どうしたら、良いのか、「めんどくさい・かったるい」若者の心理を動かす方法論を皆さんと一緒に考えて行きたい。

日時 4月10日(土)

スケジュール

受付開始 : 13時00分

講演 : 13時30分～15時

質疑応答 : 15時10分～16時

個別相談 : 16時10分から16時50分

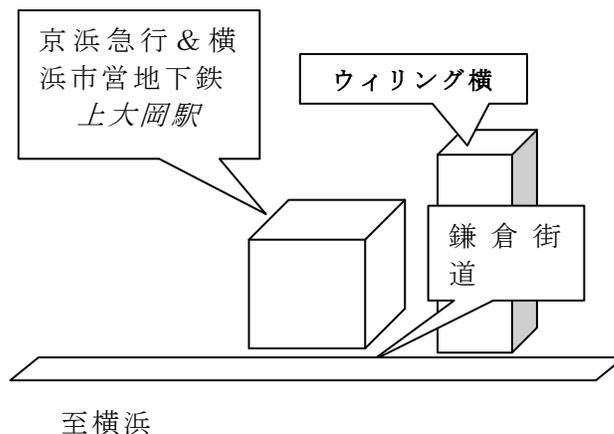
参加費 : 資料代500円(会員無料)

会場

横浜・上大岡ゆめおおおかオフィスタワー内

ウィリング横浜503号室(5F)

定員 : 30名先着



◎ **グループカウンセリングのお知らせ**

宇奈月でグループカウンセリングを実施します。
グループカウンセリングは、7名前後の参加者とカウンセラーが行なう小集団のカウンセリングです。
牟田先生のグループカウンセリングです。今回は三回シリーズになります。
日程、参加申し込みは下記の通りです。

◎ **日程**
・富山宇奈月（AHEビルカウンセリングルーム）

一回目	二回目	三回目
5月9日（日）	6月27日（日）	未定

※ 時間はいずれも午前9：30～11：30です

.....

—グループカウンセリング申込書— 参加希望の方はF a xまたはメールでお申込み下さい

参加者氏名	
住所	〒
TEL	
Email	

※ グループカウンセリング費用 ¥9,000（¥3,000×3回） 会員の方は特典があります

F A X 045-848-3742

メール contact@kyoken.org

NPO法人教育研究所の会員の申し込みについてのご連絡

従来、会員の皆様には会費を年会費として一律5,000円お支払いいただいておりますが、平成21年1月から、1口5,000円としてお申し込みをいただきたく存じます。

昨年度の牟田先生の緊急入院に際しまして、皆様方の温かいご支援をいただき、教育研究所も何とか再建の方向で動き出すことが出来ました。牟田先生も少しずつ現場に復帰出来るまで回復し、カウンセリング、講演などの活動を始めました。

ただ、教育研究所の運営はまだ不安定な状況であり、運営の母体となる年会費を皆様にご協力していただけるよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

会員の特典も新しく追加しておりますのでご検討いただければ幸いです。

○ 会員の有効期間はお支払いいただいた時から、1年間の有効期間となります。

○ 年会費

※ 1口¥5,000 (1口増えるごとに¥5,000加算されます)

※ 銀行ご利用の場合は下記の口座にお支払いください。その場合は、必ずご自身のお名前を入れてください。よろしくお願い致します。

新しく会員の申込をされる方は、下記の申込書でご連絡ください。

会費納入口座は 北陸銀行 宇奈月支店
(ホクリクギンコウ ウナヅキシテン)
名義 特定非営利活動法人教育研究所
(普) 5014010

郵便振替 00230-9-112182 特定非営利活動法人教育研究所

会員の方には、

○ カウンセリング料の割引 1万5千円→1万円

○ 年5回程度の定期通信の発行

○ 講演会などのイベントのお知らせ

○ お母さんたちのミニ図書館の利用

・ 新特典

○ グループカウンセリングの割引(1口につき1回無料)

※ グループカウンセリングは年3回、横浜・宇奈月で実施します。

○ 教育研究所温泉宿泊施設(AEHビル)をご家族で利用できます。

※ 1口につき2名まで一泊無料(朝食含む)となります。(ただし、4月から11月まで)

.....

新規入会申込書(新しく会員になる方は郵送か FAX またはメールでご連絡ください)

(郵便振替でお申込みいただく方は必要有りません)

入会者氏名	
	〒

郵送先 〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20

Fax 045-848-3742

2010年「特定非営利活動法人教育研究所うなづきの活動案内」

- 宿泊型フリースクール・・・

- ネット依存・・・ネット依存に陥ってしまった若者に現実社会の豊かさを学び、ネットに対して自己規制出来るようになるためには、共同生活の効果が非常に高いということが分かってきました。日本で始めての本格的なネット依存治療コースです。プログラムは治療から学校及び社会復帰まで含まれています。状態に応じて3ヶ月コースと6ヶ月コースがあります。

費用、寮費、教育費、カウンセリング。月 150,000 円（ケースワーク費用は別途になります）

【定員 10名】

- 短期体験合宿・・・5泊6日の体験コースです。基本的には各コースの入塾のための体験合宿です。（年4回程度）35,000円、 【定員 6名】

- 自立塾OBのフォローワーク

コース	内容	寮費（1ヶ月）
A	カウンセリング&ケースワーク+生活指導+就労体験+就職支援（全てを含むケア）	145,000円
B	就職活動&アルバイトの世話、ケースワークなど	100,000円
C	寮からの正規就労（3食付き）	70,000円

※ 寮費の中には、食事代、寮費を含みます。（Dコースは食事代別です）

その他アルバイト&就労している方には布団使用料月 1,000円、駐車料月 1,000円（別途）が掛かります。

短期体験合宿以外の上記希望者は随時受付をしています。（但し、事前面接が必要です）

※ 各コースとも定員になり次第締切ります

- 保護者のための研修会（1泊2日）とグループカウンセリング（日帰り）

子どもや若者への対応や親としてやらなければいけないこと、子どもの再登校、社会復帰のためにしなければならないことを集中的に学びます。（年3回程度）18,000円

自立塾以外合宿所として富山県黒部市宇奈月温泉「NPO教育研究所AHEビル」を使用。

教育研究所伝言板

継続して寄附を求めています

専用寄附口座 横浜銀行 上永谷支店 店番号 323 口座番号 1442822

名義人 特定非営利活動法人 教育研究所 (寄付) 理事長 牟田 武生

ソフトボールや軟式野球で使うグローブやバットで使わなくなったものが、ございましたら、ご寄附ください。(送料は負担します)

ボランティア募集中

教科指導の補助出来る方(英語・数学・国語)

カウンセリングやケースワークの臨床をしたい方。

時間講師募集中、高卒検程度の教科指導できる方。

技術をお持ちの方で、定年退職され、その技術を若者に伝え、若者の自立支援に役立ちたい方

お母さんたちの交流会のお知らせ☆

「毎月5~6人が集まって、お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせています。共通する悩みを持つもの同士、気軽な気持ちで、息抜きにでも参加して頂ければいいなと思っています。」 (卒業生の母より)

- ・同時に親の会ミニ図書館を開催。
- ・会員の方ならどなたでも利用可。
- ・不登校やひきこもりに関する本や心理の本等が300冊以上あります。

ぜひご利用下さい。予約の必要はありません。

毎月第4土曜日午後1時から4時頃まで

NPO教育研究所横浜事務所にて

参加希望者は教育研究所までお願いします。



編集後記

とにかく、就職難である。去年の秋以降、特にひどくなった。経営者に聞くと、政府の経済的たて直しの施策が見えない以上、景気回復の見通しが立たないので、設備投資も人も採れないという。

健常者が職に就けないのだから、知的障害や軽度発達障害を持つ人はさらに難しい。富山の知的障害者の就労施設の多くは、廃棄される間伐材を使って、割りばしを作ってきたが、エコで割りばしの需要がなくなり仕事もなくなった。エコを産業化して、儲けるのは、巨大設備のある大企業ばかりだ。なんとも虚しい社会になった。(光)